

## 人間社会研究科

## I 2019年度 大学評価委員会の評価結果への対応

## 【2019年度大学評価結果総評】

人間社会研究科では、修士課程・博士後期課程ともに、副指導教員をおき、適切な時期に論文発表会が開催されている。コースワークとリサーチワークの体系的な組み合わせだけでなく、定められた時期に研究報告を義務づけることで、在籍学生が修士学位・博士学位を取得するまでの行程を管理するための仕組みが工夫されている。さらに、その仕組みの効果を検証し、改善のための努力が行われている点は評価できる。また、各分野の教員と修了生を交えた研究交流会を開催し、同窓会とセットで実施するなど、人間社会研究科を基盤とした教員・在籍学生・修了生の研究ネットワーク構築と維持の努力がなされていることは、この研究科の性質上、教育上も在籍生のキャリア形成上も現場専門職とのつながりが実践的な意味で重要となることを考えると、特に評価すべき点である。

全体として研究科の専門性に即した教育努力がなされており、それが今後も継続されることを期待したい。

## 【2019年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

全体として高い評価をいただいた。今後も継続的に評価・改善を実施して、大学評価委員会の期待に応えたい。

## 【2019年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

人間社会研究科では、前年度に高い評価を受けているため、引き続き発展的に研究科の運用に努めていただくことを期待したい。

## II 自己点検・評価

## 1 教育課程・学習成果

## 【2020年5月時点の点検・評価】

## (1) 点検・評価項目における現状

1.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

①修士課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。

S  A B

※コースワーク、リサーチワークを組み合わせた教育課程の概要を記入。

コースワークとして (1) 専門共通科目 (福祉社会専攻)、専門基幹科目 (臨床心理学専攻)、(2) 専門展開科目 (両専攻) を設定し、その上で、リサーチワークの演習科目 (福祉社会専攻)、研究指導科目 (臨床心理学専攻) を配置し、適切に開講し、教育課程を体系的に編成している。

## 【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

福祉社会専攻では、修了に必要なコースワーク (18単位) を市ヶ谷で取得できるようにするため、市ヶ谷開講科目数を増やし、授業実施の在り方について検討を進め、2020年度4月から開講するための時間割を確定した。2020年度では、新設科目「地域共生社会特論」「学術英語」のフォローアップや「福祉社会研究法」の教育方法や成果について検討する。

## 【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・『2020年度大学院要項』

②博士後期課程において授業科目を単位化し、修了要件としていますか。

はい  いいえ

## 【根拠資料】※「はい」を選択した場合に単位化及び修了要件として設定されていることが確認できる資料を記入。

・『2020年度大学院要項』

③博士後期課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。

S  A B

※コースワーク、リサーチワークを組み合わせた教育課程の概要を記入。

「選択・必修科目」では、福祉系・地域系・臨床心理学系の科目をコースワークとして開設しており、「必修科目」としてリサーチワークに重点を置いた特別演習を設けている。

## 【2019年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

## 【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

※注1 回答欄「はい/いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

・特になし	
④専門分野の高度化に対応した教育内容を提供していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※学生に提供されている専門分野の高度化に対応した教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。	
<p><b>【修士】</b> 各講義及び演習において専門分野の高度化に対応した内容の提供に努めている。 福祉社会専攻では、「福祉社会研究法」において研究方法論等をオムニバス形式で講義し、「地域共生社会特論」では地域共生社会の構造について福祉や地域作りのエキスパートを招聘しオムニバス形式で講義し、高度化に対応した内容を提供する。 臨床心理学専攻の「臨床心理基礎実習」「臨床心理実習」は複数教員が担当し、臨床心理学分野の高度専門職業人として必要な臨床実践技術の講義や事例研究を行い、専門分野の高度化に対応した教育を提供している。</p>	
<p><b>【博士】</b> 各講義及び演習において専門分野の高度化に対応した内容の提供に努めている。</p>	
<p><b>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 福祉社会専攻においては、専門分野の高度化に対応した教育内容とするため、あわせて社会人受け入れ拡充に向け、2019年度中に、専門共通科目として設定する科目の内容及び科目名、具体的な教育方法を検討し、2020年度4月から開講した。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・『2020年度大学院要項』 ・シラバス ・研究科教授会資料</p>	
⑤大学院教育のグローバル化推進のための取り組みをしていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※大学院教育のグローバル化推進のために行っている取り組みの概要を記入。	
<p><b>【修士】</b> 海外留学への補助金、海外における研究活動補助制度、外国語論文校閲制度などを周知し、利用を促し、実績をあげている。また、福祉社会専攻では、英語専任教員による「原書講読研究」を開講し、非英語圏からの留学生及び英語圏への留学希望者を中心に、専門文献の読解を行っている。また、2020年度から「学術英語」を開講し、英語で論文作成や発表、投稿できるスキルを取得できるようにしている。</p>	
<p><b>【博士】</b> 海外留学への補助金、海外における研究活動補助制度、外国語論文校閲制度などを周知し、利用を促し、実績をあげている。</p>	
<p><b>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 ・応募・採用状況（研究科長会議資料） ・シラバス</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし</p>	
1.2 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	
①学生の履修指導を適切に行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※履修指導の体制および方法を記入。	
<p><b>【修士】</b> 新型コロナウイルスウィルス感染拡大防止のため2020年4月の新入生ガイダンスが中止となったため、新入生オリエンテーション・ガイダンスにおける配布資料を送付した。また、福祉社会専攻・臨床心理専攻共に「オンラインおよびメール」を通じて、各専攻別に新入生全員に履修指導を行った。 指導教員が個別に研究テーマに則して履修を指導している。 1年次1月に副指導教員を定め、指導を個人まかせにしている。</p>	
<p><b>【博士】</b> 新型コロナウイルスウィルス感染拡大防止のため2020年4月の新入生ガイダンスが中止となったため、新入生オリエンテーション・ガイダンスにおける配布資料を送付した。また指導教員確定後、指導教員を中心に履修指導を行った。 指導教員が個別に研究テーマに則して履修を指導している。</p>	

※注1 回答欄「はいいいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

1 年次 1 月に副指導教員を定め、指導を個人まかせにしていない。	
<b>【2019 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>『2020 年度大学院要項』</li> <li>新入生オリエンテーション・ガイダンスにおける配布資料</li> <li>研究科教授会資料。</li> </ul>	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。	
特になし	
②研究科（専攻）として研究指導計画を書面で作成し、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
※ここでいう「研究指導計画」とは、事務手続きのスケジュールやシラバス等の個別教員の指導計画を指すのではなく、研究科としての研究指導体制及び研究指導スケジュールをまとめたものを指します（学位取得までのロードマップの明示等）。また、「あらかじめ学生が知ることの状態」とは、HP や要項への掲載、ガイダンスでの配布等が考えられます。	
<b>【修士】</b>	
学位取得までのロードマップについては、「論文指導と研究倫理のスケジュール」を、『大学院要項』に掲載し、明示している。	
研究指導計画については、両専攻の「研究指導計画」を、『大学院要項』に掲載し、明示している。	
<b>【博士】</b>	
学位取得までのロードマップについては、「論文指導と研究倫理のスケジュール」を、『大学院要項』に掲載し、明示している。	
研究指導計画については、「研究指導計画」を、『大学院要項』に掲載し、明示している。	
<b>【根拠資料】</b> ※研究指導計画が掲載された文書・冊子等の名称を記入。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>『2020 年度大学院要項』</li> </ul>	
③研究指導計画に基づく研究指導、学位論文指導を行っていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
※組織的な研究指導、学位論文指導の概要を記入。	
<b>【修士】</b>	
研究科教授会において、論文構想発表、中間報告、論文提出、論文審査、論文発表、研究倫理審査などの研究指導計画を決定し、それに基づき研究科教授会として適切に実施している。	
<b>【博士】</b>	
研究科教授会において、各年次の研究発表、予備登録、論文提出、論文審査、口頭試問、論文発表、研究倫理審査などの研究指導計画を決定し、それに基づき研究科教授会として適切に実施している。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>『2020 年度大学院要項』</li> <li>研究科教授会議事録</li> </ul>	
1.3 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	S <input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
※成績評価と単位認定の確認体制及び方法を記入。	
<b>【修士】</b>	
成績評価・単位認定基準を『大学院要項』に掲載、明示したうえで、適切に運用している。	
修士論文の評価については、発表会を行い、適切性を確認している。	
福祉社会専攻では「修士論文評価報告書」を正副指導教員が作成し、研究科教授会で成績評価と合わせて学位授与の適切性を確認している。	
<b>【博士】</b>	
成績評価・単位認定基準を『大学院要項』に掲載、明示したうえで、適切に運用している。	
年度末に「研究成果報告書」を提出させ、正副指導教員は研究の進捗と研究成果を検討し、所見を加えた報告書を研究科教授会へ報告し、研究の進展を確認している。	
学位論文の評価については、論文発表会を行い、適切性を確認している。	
<b>【2019 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。	
特になし	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・『2020 年度大学院要項』 ・研究科教授会資料	
②学位論文審査基準を明らかにし、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
※学位論文審査基準の名称及び明示方法を記入。 <b>【修士】</b> 2011 年に各専攻の学位論文審査基準を制定し、2013 年、2018 年の一部改正を経て運用している。学位論文審査基準は『大学院要項』に掲載し、明示している。 <b>【博士】</b> 2011 年に各専攻の学位論文審査基準を制定し、2013 年、2018 年の一部改正を経て運用している。学位論文審査基準は『大学院要項』に掲載し、明示している。	
<b>【根拠資料】</b> ※学位論文審査基準にあたる文書の名称を記入。また、冊子等に掲載し公表している場合にはその名称を記入。 ・『2020 年度大学院要項』	
③学位授与状況（学位授与者数・学位授与率・学位取得までの年限等）を把握していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
※箇条書きで記入※データの把握主体・把握方法、データの種類等を記入。 「修了年次管理表」を作成し、学位授与者数、学位授与率、学位取得までの年限などを掌握している。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・「修了年次管理表」	
④学位の水準を保つための取り組みを行っていますか。	S <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
※取り組み概要を記入。 <b>【修士】</b> 専攻ごと、年度中盤に実施する論文構想発表会、年度末に実施する論文発表会には、全教員の出席を求め、活発な質問・意見交換を行っている。これにより、研究科全体として、学位論文の水準の向上と、水準の検証に努めている。 <b>【博士】</b> 6 月に実施する博士論文年次研究発表会、年度末の博士論文発表会には、全教員の出席を求め、活発な質問・意見交換を行っている。これにより、研究科全体として、学位論文の水準の向上と、水準の検証に努めている。	
<b>【2019 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。 ・博士課程では、全ての在籍学生が 6 月に研究発表を行うようにしている。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・論文指導と研究倫理のスケジュール（『2020 年大学院要項』12 ページ）	
⑤学位授与に係る責任体制及び手続を明らかにし、適切な学位の授与が行われていますか。	S <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
※責任体制及び手続等の概要を記入。ただし、博士については、学位規則のとおりに行われている場合には概要の記入は不要とし、「学位規則のとおり」と記入。 <b>【修士】</b> ・責任体制の明確化 指導教員承認届に基づいて 4 月の研究科教授会において指導教員を決定し、翌年 1 月の研究科教授会において副指導教員を決定している。 ・手続きの明確化 博士論文年次研究発表会を行い、研究内容と論文構成について指導している。 論文受理審査（1 次、2 次；複数名の委員が担当）に合格した論文については、学外の委員を含む複数名で構成される博士論文審査委員会にて審査（口述試験を含む）を行い、その結果を踏まえて研究科教授会で合否の審議を行っている。 ・適切性の確認 合格した博士論文については、博士論文発表会（公開）を行い、学位授与の適切性を確認している。	
<b>【博士】</b> ・責任体制の明確化 指導教員承認届に基づいて 4 月の研究科教授会において指導教員を決定し、翌年 1 月の研究科教授会において副指導教員を決定している。 ・手続きの明確化	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<p>博士論文年次研究発表会を行い、研究内容と論文構成について指導している。</p> <p>論文受理審査（1次、2次；複数名の委員が担当）に合格した論文については、学外の委員を含む複数名で構成される博士論文審査委員会で審査（口述試験を含む）を行い、その結果を踏まえて研究科教授会で可否の審議を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・適切性の確認</li> </ul> <p>合格した博士論文については、博士論文発表会（公開）を行い、学位授与の適切性を確認している。</p>	
<p><b>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉社会専攻では、「修士論文評価報告書」に基づく研究科教授会での評価を開始した。</li> </ul>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『2020年度大学院要項』</li> <li>・研究科教授会資料</li> </ul>	
⑥学生の就職・進学状況を研究科（専攻）単位で把握していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>※データの把握主体・把握方法、データの種類等を記入。</p> <p>「修了年次管理表」を作成し、学生の就職・進学状況を把握している。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「修了年次管理表」</li> </ul>	
1.4 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
①分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p><b>【修士】</b></p> <p>福祉社会専攻では、分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標として、「修士論文評価報告書」において、I問題意識と研究テーマ、II先行研究の検討と独自性、III研究方法、IV結果の分析と考察、V論文の記述の5つの指標を設定し、総合的に評価している。臨床心理学専攻では、分野の特性に応じた学習成果を測定するために、臨床心理士の資格取得率を確認している。今後は公認心理士の資格取得率も把握していく予定である。</p> <p><b>【博士】</b></p> <p>分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標として、「研究成果報告書」から、学会発表の回数及び公表論文の本数を把握している。</p>	
<p><b>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「修士論文評価報告書」</li> <li>・博士課程「研究成果報告書」</li> </ul>	
②具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>※取り組みの概要を記入。取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学習成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等。</p> <p><b>【修士】</b></p> <p>福祉社会専攻では、「修士論文評価報告書」を正副指導教員が作成し、それをもとに研究科教授会で、具体的な学習成果の把握・評価のための議論を行っている。</p> <p>臨床心理学専攻では、臨床心理士の資格取得率が92.8%、公認心理士の資格取得率が86.6%に達しており、十分な成果をあげていることを把握している。</p> <p><b>【博士】</b></p> <p>「研究成果報告書」を毎年提出することを全員に義務付けており、それに正副指導教員のコメントを追記したものを教授会で検討している。</p>	
<p><b>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究科教授会資料、議事録</li> </ul>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

1.5 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	
①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程及びその内容、方法の改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※検証体制および方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。</p> <p><b>【修士】</b> 修士論文構想発表会、修士論文発表会での発表や質疑応答をもとに、研究科教授会として学習成果を検証し、教育課程及びその内容、方法の適切性について点検・評価を行っている。</p> <p><b>【博士】</b> 博士論文年次研究発表会及び博士論文発表会での発表や質疑応答をもとに、研究科教授会として学習成果を検証し、教育課程及びその内容、方法の適切性について点検・評価を行っている。</p> <p><b>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 特になし</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・『2019年度大学院要項』 ・研究科教授会議事録</p>	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>教務委員会において授業アンケート結果を点検している。 個別の対応が必要な場合は、執行部が対応している。</p> <p><b>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 特になし</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・教授会議事録</p>	

## (2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・コースワークとリサーチワークを組み合わせつつ、論文作成のプロセスの所要所で研究報告や研究成果の提出などを義務付け、着実に前進するようにしている。	

## (3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

## 【この基準の大学評価】

人間社会研究科では、修士・博士課程共に、コースワークとリサーチワークの科目群が適切に配置され教育課程を体系的に編成していることは評価できる。特に、福祉社会専攻では、コースワークの市ヶ谷開講科目数を増やすことや新設科目などのフォローアップや教育方法の検討が行われるなど、各講義及び演習において専門分野の高度化に対応した内容の提供に努めていることは評価できる。

福祉社会専攻では、非英語圏からの留学生や英語圏への留学希望者向けに「原書講読研究」を開講したり、英語で論文作成や発表、投稿できるスキルを取得できることを目的とした「学術英語」を開講するなど、新たなグローバル化推進のための取り組みも評価できる。

学生の履修指導は、新型コロナウイルス感染拡大防止のために、通常とは異なり緊急対応することになったと思われるが、学生に不利益が生じないような措置を講じていただきたい。研究指導は、学位取得までのロードマップや学位論文の審査基準等が『大学院要項』に明示されており、研究指導や学位論文指導はプロセスごとにスケジュール管理されており評価される。学位の水準を保つために、責任体制や手続きを明確化し、提出された論文発表会は、研究科の学習成果を測

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

定するための指標としても活用されており、教育課程及びその内容、方法の適切性について点検・評価するシステムとして適切だと評価できる。

## 2 教員・教員組織

### 【2020年5月時点の点検・評価】

#### (1) 点検・評価項目における現状

2.1 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	
①研究科（専攻）独自のFD活動は適切に行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<b>【FD活動を行なうための体制】</b> ※箇条書きで記入。 ・授業改善アンケートを各教員が資質向上のため活用している。 ・授業改善アンケートの結果を研究科教務委員会が検討し、必要な対応を行っている。 <b>【2019年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】</b> ※箇条書きで記入。 ・ <b>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 特になし <b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 特になし	
②研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策を講じていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※取り組みの概要を記入。 研究科として、各分野の教員と修了生を交えた研究交流会を多摩共生社会研究所との共催で開催し、その後に同窓会も行うことで、研究交流と研究の活性化の場を提供している。また、専攻を超えた研究交流や研究促進のための「研究交流会」を企画した（コロナ感染拡大の懸念から、実施を中止・延期とした）。 『現代福祉研究』（現代福祉学部紀要）に各教員の年間研究成果を掲載し、情報を共有している。 <b>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 特になし <b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・研究交流会 ・『現代福祉研究』	

#### (2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・研究科として、研究交流会・Well-being研究会を開催し、教員の資質向上及び、研究活動や社会貢献活動の活性化に努めている。	

#### (3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

### 【この基準の大学評価】

人間社会研究科では、FD活動として授業改善アンケートを各教員が資質向上のため活用している。さらに、各分野の教員と修了生を交えた研究交流会を多摩共生社会研究所との共催で開催し、その後に同窓会も行うことで、研究交流と研究の活性化の場を提供するなど、専攻を超えた継続的な研究交流や研究促進の取り組みについても評価できる。コロナ感染拡大の懸念から、やむを得ず実施を中止・延期しているが、今後はオンラインなどで効果的な対応ができるように対策を講じることを期待したい。

## III 2019年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準	理念・目的

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

1	中期目標	研究科設立時の理念と目的を共有しながら、常に時代の趨勢との適合性について検証を行う。	
	年度目標	時代の趨勢と、本研究科での教育に求められる課題について確認する	
	達成指標	研究科教務委員会において、時代の趨勢に対応すべき課題を協議し、整理する。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	「一専攻2学位」の在り方をめぐり、研究科として時代の趨勢に対応すべき課題を検討した。
		改善策	研究科創設の理念も踏まえ、「一専攻2学位」の在り方及び運用について、検討を継続する。
質保証委員会による点検・評価			
所見		ほぼ達成した。 時代の趨勢と、研究科設立時の理念との関係を点検することは常に必要である。	
改善のための提言	もし時代の趨勢と研究科設立時の理念に大きな齟齬があるのであれば、研究科の方向性について抜本的な議論も必要なのではないか。		
No	評価基準	内部質保証	
2	中期目標	質保証委員会と研究科執行部のコミュニケーションを通じて、PDCA サイクルで研究科運営の効率性を高める。	
	年度目標	質保証委員会と研究科執行部のコミュニケーションを密に取る。	
	達成指標	年度当初（自己点検評価と目標作成時点）、中間（事業遂行時点）、年度末（年度目標達成確認時点）の3段階で、研究科執行部へのヒアリングも含めた情報交換を行う。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	B
		理由	年度当初と、年度末の2段階での情報交換となった。
		改善策	質保証委員会と研究科執行部のコミュニケーションを密にし、中間（事業遂行時点）での意見交換の在り方・必要性を検討する。
質保証委員会による点検・評価			
所見		ほぼ達成したが、十分とは言えない。 中間時の情報交換がなされていない。	
改善のための提言	中間時の意見交換の必要性を検討する。		
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
3	中期目標	常に時代の趨勢との適合性について検証を行い、国際化や地域間格差等に対応した教育と高度専門職業人養成のためのキャリア教育の提供のあり方について検討し改編する。	
	年度目標	福祉社会専攻は、専門共通科目の内容、科目名、科目数を変更する。臨床心理学専攻は、公認心理師指定科目を含んだカリキュラムの効果と課題を検証する。	
	達成指標	福祉社会専攻の専門共通科目については学則変更を行い、シラバスを検討する。 臨床心理学専攻は、左記の検証の場を持つ。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	福祉社会専攻においては専門共通及び専門展開科目の改編と学則変更をし、シラバスを検討した。臨床心理学専攻では授業期間中ほぼ毎週開催している専攻会議で特に集中授業の配置等について検討を行った。
		改善策	福祉社会専攻では休講にしている「生活問題特論」と「ケアマネジメント特論」の扱いを検討する。臨床心理学専攻では集中授業を含めたカリキュラム全体の構成をさらに検討していく。
質保証委員会による点検・評価			
所見		ほぼ達成した。	

※注1 回答欄「はいいいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。



			シラバスについては、学生のニーズに踏まえた改正が、福祉社会専攻、臨床心理学専攻でなされた。	
		改善のための提言	引き続き検討を進めてもらいたい。	
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】		
4	中期目標	研究科全体では、少人数授業で効果的な教育方法を推進する。福祉社会専攻では、社会人学生や入学者数に相応しい専門展開科目の授業数や時間割について検証し、改編する。		
	年度目標	福祉社会専攻は、市ヶ谷開講科目数を増やし時間割を見直す。臨床心理学専攻では、心理実践実習（公認心理師指定科目）における実習教育の適切な実施について検討する。		
	達成指標	市ヶ谷開講科目については時間割を確定する。	心理実践実習については臨床心理学専攻会議で実習教育の適切な進め方を議論する。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	A	
		理由	福祉社会専攻は市ヶ谷・土曜開講科目の時間割を確定した。「地域共生社会特論」、「学術英語」を新設し、効果的な教育方法を実践する。臨床心理学専攻は心理実践実習（公認心理師指定科目）の実習機関への配置、巡回指導、実習先との連携等について継続的に検討を行った。	
		改善策	福祉社会専攻では学部のカリ改革と連動して2021年度時間割の検討が必要である。臨床心理学専攻では心理実践実習の実習先をさらに確保することや、実習先の指導者との連携をさらに密にする方策を検討する。	
		質保証委員会による点検・評価		
所見		ほぼ達成した。 福祉社会専攻では、市ヶ谷夜間開講を増やしたことは社会人学生に必要な配慮である。臨床心理学専攻では公認心理師への必要な検討を行った		
	改善のための提言	引き続き検討を進めてもらいたい。		
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】		
5	中期目標	学生の個別的な状況に配慮しつつ、学位基準に達するための適切な教育・研究指導を研究科全体で実施する。		
	年度目標	福祉社会専攻では修士論文評価報告書の定着に努める。臨床心理学専攻では修士論文の研究成果と、心理実践実習など臨床教育の成果との相乗効果と課題を検討する。人間福祉専攻では博士論研究発表の定着に努める。		
	達成指標	修士論文評価報告書に基づき研究科教授会で審議をする。 左記の相乗効果に関する検討の場を持つ。 博士論文年次研究発表会を開催する。		
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	A	
		理由	福祉専攻は、修士論文評価報告書に基づき専攻会議で審議を行いその結果を教授会に報告した。 臨心専攻では修士論文発表会を中心に、研究成果と臨床教育の成果の相乗効果を確認した。 人福専攻は、博士論文年次発表会を開催した。	
		改善策	福祉社会専攻では修士論文構想検討会（M1）を7月に前倒しし、論文指導プロセスを確実にする。 臨床心理学専攻では修士論文構想発表会（M1）から修士論文発表会（M2）への成果の達成度を専攻会議等で確認する。	
		質保証委員会による点検・評価		
所見		ほぼ達成した。		

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

			福祉社会専攻では、修士論文の評価の明確化がなされた。臨種心理学専攻では、修士論文発表会で成果を確認し、その達成度を専攻会議で共有した。	
		改善のための提言	—	
No	評価基準		学生の受け入れ	
6	中期目標		修士課程において学部卒業生、社会人、留学生等のバランスの良い入学者の確保を図り、研究科全体の入学定員充足率を高い水準で保つ。	
	年度目標		福祉社会専攻では、社会人入学生増加策を具体化する。臨床心理学専攻では、従来どおりの入学者数を確保するための方策、人間福祉専攻では入学者を増やす改善策をそれぞれ検討する。	
	達成指標		福祉社会専攻では市ヶ谷開講科目の科目数、時間割を変更する。臨床心理学専攻及び人間福祉専攻では、左記について各専攻会議/懇談会で検討する。その上で教務委員会、研究科教授会で議論する。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価		A
		理由		福祉社会専攻は、社会人学生受け入れのため、市ヶ谷・土曜開講科目を増やした。臨床心理学専攻では入学者を確保する方策や合格者数の査定について検討した。
		改善策		臨床心理学専攻では微減傾向にある志願者数を確保する方策について専攻会議等で検討する。人間福祉専攻は受験生が急増したが、その要因分析や今後の見通しの検討が必要である。
		質保証委員会による点検・評価		
		所見		ほぼ達成したが、一部不十分である。福祉社会専攻の定員は充足していない。
		改善のための提言		社会人受け入れのための方策の効果を評価する。
No	評価基準		教員・教員組織	
7	中期目標		教育理念・目的に合致するような専門分野の教員を配置し、かつ研究科の持続的な発展を目指した年齢構成を維持する。	
	年度目標		福祉社会専攻の専任教員の充足を行う。	
	達成指標		大学院を担当できる専任教員の新規採用をめざす。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価		S
		理由		福祉社会専攻の専任教員を新規採用した。
		改善策		—
		質保証委員会による点検・評価		
		所見		達成した。教員を採用した。
		改善のための提言		—
No	評価基準		学生支援	
8	中期目標		外国人留学生の教育・研究ならびに就職に関する支援をより一層充実させる。	
	年度目標		現在のチューター制度の拡充について、「大学院日本語科目」の実施状況を把握しつつ検討する。留学生の就職支援のためにキャリアセンターとの連携について検討する。	
	達成指標		外国人留学生へのヒアリング調査を行う。キャリアセンターと情報交換の場を持つ。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価		B

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

	理由	外国人留学生へのヒアリングとアンケート調査を行った。 キャリアセンターとの情報交換の場は持てなかった。	
	改善策	キャリアセンターとの情報交換の在り方を検討する。	
	質保証委員会による点検・評価		
	所見	ほぼ達成したが、一部不十分である。 研究科独自の留学生へのヒアリングとアンケート調査を行ったことは、十分に評価すべきであるが、キャリアセンターとの情報交換ができていない。	
	改善のための提言	留学生への支援のあり方を、ヒアリングやアンケート調査をもとに具体化する。	
No	評価基準	社会連携・社会貢献	
9	中期目標	修了生がどのように社会と接点を持ち、貢献しているのかを常に確認するとともに、研究科が地域社会と連携し、貢献するための方策を検討し実践する。	
	年度目標	各専攻ともに、修了生どうしが情報交換し各分野の研鑽を積む場を提供する。従来同様、学内多摩共生社会研究所等との共催で公開研究会を開催する。	
	達成指標	人間社会研究科全体の交流促進を進めるため「研究交流会」を開催する。臨床心理学専攻では、修了生と在学生による臨床心理の会を継続発展させ、年次大会の内容のさらなる充実をはかる。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	多摩共生社会研究所との共催の研究会で修了生が報告し、修了生と在学生の交流を促進した。研究科としての研究会を行い、専攻を越えて全体の交流を企画した。臨床心理の会への修了生の参加を呼びかけ、より充実した内容を企画した。
		改善策	—
質保証委員会による点検・評価			
所見	ほぼ達成した。		
改善のための提言	引き続き充実に向けて検討を進めてもらいたい。		
<p><b>【重点目標】</b> 福祉社会専攻においては、専門共通科目として設定する科目の内容と数、科目名を変更する。あわせて、市ヶ谷開講科目数を増やし時間割を見直す。臨床心理学専攻においては、心理実践実習（公認心理師指定科目）における実習教育の適切な実施について検討する。人間福祉専攻では博士論研究発表会の定着に努め、博士論文提出へのプロセスを明確にする</p> <p><b>【年度目標達成状況総括】</b> 福祉社会専攻においては専門共通科目及び専門展開科目の改編と学則変更を行い、時間割を確定した。DP, CP を2学位にふさわしいものと改訂した。これによって次年度から新たなカリキュラムの下で研究指導を始める準備が完了した。臨床心理学専攻においては、心理実践実習（公認心理師指定科目）の実習機関への配置、巡回指導、実習先との連携等について継続的に検討を行った。 人間福祉専攻においては、博士論文年次発表会、研究成果報告の定着と改善を行い、プロセスを明確にした。DP, CP を2学位にふさわしいものと改訂した。研究科全体としての研究交流を企画することができた。</p>			

### 【2019年度目標の達成状況に関する大学評価】

2019年度目標の人間社会研究科の年度末での達成状況に関し、教育方法について、福祉社会専攻では市ヶ谷・土曜開講科目の時間割を確定し、「地域共生社会特論」や「学術英語」を新設し、教育環境や方法の改善がみられる。学生の受け入れは、定員の充足化に向けた取り組みを引き続き期待したい。そのためにも教員の適正な配置が求められるところであるが、福祉社会専攻の専任教員を新規採用したことは、カリキュラムを充実するための取り組みとして評価できる。留学生の就職支援も課題となっているが、引き続きキャリアセンターとの連携や他の方策について検討することが求められる。社会連携について、修了生が参加する公開研究会、「研究交流会」などの研鑽の場が継続的に確保されていることは高く評価される。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

## IV 2020 年度中期目標・年度目標

No	評価基準	理念・目的
1	中期目標	研究科設立時の理念と目的を共有しながら、常に時代の趨勢との適合性について検証を行う。
	年度目標	時代の趨勢と、本研究科での教育に求められる課題について確認する。
	達成指標	研究科教務委員会において、時代の趨勢に対応すべき課題を協議し、整理する。
No	評価基準	内部質保証
2	中期目標	質保証委員会と研究科執行部のコミュニケーションを通じて、PDCA サイクルで研究科運営の効率性を高める。
	年度目標	質保証委員会と研究科執行部のコミュニケーションを密にする。
	達成指標	年度当初（自己点検評価と目標作成時点）、中間（事業遂行時点）、年度末（年度目標達成確認時点）の三段階で、内部質保証委員会と研究科執行部との情報交換を行う。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
3	中期目標	常に時代の趨勢との適合性について検証を行い、国際化や地域間格差等に対応した教育と高度専門職業人養成のためのキャリア教育の提供のあり方について検討し改編する。
	年度目標	福祉社会専攻では新設した専門共通科目、専門展開科目も含めて、専門分野の高度化に対応した教育内容、体系的な教育課程となっているか検討する。臨床心理学専攻は、公認心理師指定科目を含んだカリキュラムの効果と課題を検証する。
	達成指標	福祉社会専攻では、専門共通科目、専門展開科目のシラバスを検証するとともに、休講にしている「生活問題特講」と「ケアマネジメント特論」の取り扱いを検討する。臨床心理学専攻は、左記の検証の場を持つ。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
4	中期目標	研究科全体では、少人数授業で効果的な教育方法を推進する。福祉社会専攻では、社会人学生や入学者数に相応しい専門展開科目の授業数や時間割について検証し、改編する。
	年度目標	福祉社会専攻は、市ヶ谷開講科目を増やし時間割を見直したことによる教育課程・学習成果から教育方法について検討する。臨床心理学専攻では、心理実践実習（公認心理師指定科目）における実習教育の適切な実施について検討する。
	達成指標	福祉専攻では、学部のカリキュラム改革と連動して、2021 年度の市ヶ谷開講科目・時間割を確定する。心理実践実習については臨床心理学専攻会議で実習教育の適切な進め方を議論する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
5	中期目標	学生の個別的な状況に配慮しつつ、学位基準に達するための適切な教育・研究指導を研究科全体で実施する。
	年度目標	福祉社会専攻では、論文指導を早期に進めるために修士論文構想検討会（M1）を春学期に実施することや修士論文の学位取得基準の明確化のために修士論文評価報告書の定着に努める。臨床心理学専攻では修士論文の研究結果と、心理実践実習など臨床教育の成果との相乗効果と課題を検討する。人間福祉専攻では、博士論文年次研究発表会と1年間の研究成果である「研究成果報告書」をもとに、研究科全体で研究指導体制を定着させる。
	達成指標	福祉社会専攻では、春学期に開催の修士論文構想発表会（M1）において論文指導指導プロセスへの効果を審議する。臨床心理学専攻では、左記の相乗効果に関する検討の場を持つ。人間福祉専攻では、博士論文年次研究発表会を開催するとともに、「研究成果報告書」への指導教員、副指導教員からの講評をもとに、研究科全体で、学位基準に達する研究指導の充実に向けて検討の場を持つ。
No	評価基準	学生の受け入れ
6	中期目標	修士課程において学部卒業生、社会人、留学生等のバランスの良い入学者の確保を図り、研究科全体の入学定員充足率を高い水準で保つ。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

	年度目標	福祉社会専攻では社会人入学生増加のため市ヶ谷開講科目数の増やし時間割を確定したこととの関連で検討する。臨床心理学専攻では、従来通りの入学者数を確保するための方策、人間福祉専攻では入学者の安定的な定員充足についてそれぞれ検討する。
	達成指標	福祉社会専攻では2020年度入学者には成果が得られていないので、引き続きバランスのよい入学者確保について検討する。臨床心理学専攻及び人間福祉専攻では、左記について各専攻会議/懇談会で検討する。その上で教務委員会、研究科教授会で議論する。
No	評価基準	教員・教員組織
7	中期目標	教育理念・目的に合致するような専門分野の教員を配置し、かつ研究科の持続的な発展を目指した年齢構成を維持する。
	年度目標	専任教員について専門分野の教育・指導を行う教員組織の充実を検討する。
	達成指標	人間福祉専攻の教育・指導を担当できる専任教員組織の配置をめざす。
No	評価基準	学生支援
8	中期目標	外国人留学生の教育・研究ならびに就職に関する支援をより一層充実させる。
	年度目標	外国人留学生対象とする現在のチューター制度、「チューター日本語相談室」などの利用状況を把握し、教育や研究へどのように成果をあげているか検討する。また就職に関してはキャリアセンターの支援を受けるよう指導する。
	達成指標	外国人留学生へ、チューター制度やチューター日本語相談室の利用状況などのヒアリングを行う。就職についてはキャリアセンターの支援を受けているのかについて確認する。
No	評価基準	社会連携・社会貢献
9	中期目標	修了生がどのように社会と接点を持ち、貢献しているのかを常に確認するとともに、研究科が地域社会と連携し、貢献するための方策を検討し実践する。
	年度目標	各専攻ともに、修了生どうしが情報交換し各分野の研鑽を積む場を提供する。これまで同様、学内多摩共生社会研究所等との共催で公開研究会を開催する。人間社会研究科の研究交流促進を進めるための「研究交流会」の内容や方策を検討する。
	達成指標	専攻を超えた研究交流や研究促進のための「研究交流会」を企画し実施に向けて具体的に検討する。なお、臨床心理学専攻では、修了生と在在学生による臨床心理の会を継続発展させ、年次大会の内容のさらなる充実を通して専門性の維持をはかる。
<p><b>【重点目標】</b></p> <p>2020年度春学期では新型コロナウイルス肺炎感染拡大防止によるキャンパス入校禁止およびオンライン学習による学生生活・授業および研究指導・院生の研究環境への与えた問題を整理し、その対応に取り組む。福祉社会専攻では、効果的な教育方法や論文指導体制を検討する。臨床心理学専攻では、心理実習（公認心理師指定科目）における実習教育の適切な実態について検討する。修士・博士ともに、研究科全体で学位基準に達する研究指導体制を定着させる。</p> <p><b>【目標を達成するための施策等】</b></p> <p>福祉専攻では新設科目や市ヶ谷開校科目・時間割のフォローアップ、修士論文研究指導体制について検討する。心理実践実習については臨床心理学専攻会議で実習教育の適切な進め方を議論する。研究科全体では、修士論文構想発表会などの論文指導プロセスへの効果を検討すること、博士論文年次研究発表会を開催や1年間の「研究成果報告書」への講評をもとに、学位基準に達する研究指導に関する検討の場を持つ。</p>		

### 【2020年度中期目標・年度目標に関する大学評価】

人間社会研究科の2020年度中期目標・年度目標設定に関して、時代の趨勢との適合性について検証を行い、国際化や地域間格差等に対応した教育と高度専門職業人養成のためのキャリア教育の提供を検討し改編するという、人間社会研究科の方針は評価できる。そのために福祉社会専攻では専門共通科目、専門展開科目を新設するなど、臨床心理学専攻についてもカリキュラムの効果と課題の検証が行われる。

学生の定員充足をはかるために、市ヶ谷開講科目数を増やした時間割を整備し、社会人学生の増加を目指していることは、改善策としては有効性があると思われる。

貴研究科の持続的な発展を目指すために、教員組織の充実を図ることは重要である。継続的な公開研究会や「研究交流会」「臨床心理の会」の開催による交流促進や研究交流を活発化させるための試みが企図されており、成果を期待したい。

※注1 回答欄「はいいいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

## 【大学評価総評】

人間社会研究科では、修士・博士課程共に学位取得までのロードマップを学生に明示し、研究指導計画書を作成、決定して適切に実施している。正副指導教員をおき、論文発表会を設けて学位取得に至る進捗状況を定期的に点検、指導する体制がとられている。コースワークとリサーチワークの科目群が体系的に編成され、研究交流会の開催や学習成果の測定の取り組みも具体的に行われるなど、専門分野の高度化に対応した教育体制がとられるなど、前年度に高く評価されたことが継続されていることは評価できる。

なお、留学生の就職支援のあり方については課題とされるように、今後の改善に向けて期待したい。また、福祉社会専攻の入学定員の充足化の改善をはかるための具体策の検討や、より充実した教育環境の整備や社会発信にも心がけることにも期待したい。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。